



信州・北アルプス白馬山麓

小谷村

/// HAKUBA VALLEY

集落・地区の個性を大切にする
小谷村の農村RMOのあり方

1. 村概要と小谷村の集落の特徴
2. 小谷村で形成、運営されている農村RMOの形
3. 小谷村の農村RMO事例
4. 土谷地区の事例



おたり

長野県 小谷村

人口 2,632人 過疎指定地域

世帯数 1,218世帯 (2023年11月30日時点)

耕地面積約2% (水田150ha) 森林90%

長野県西北端 (南小谷駅は特急あずさの終着駅)

冬は有数の豪雪地 (特別豪雪地域)

国立公園を2つ有する (中部山岳・妙高戸隠連山)

生活文化の異なる53の集落が 溪谷型地形に点在

農村エリア



スキー/山岳
リゾートエリア



集落（相互扶助など生活を目的とした団体的居住）が点在
→地理的条件による。（距離、水利、氏子など）

特に伝統芸能など継承を重んじる。



お祭り、獅子舞、どんど焼きなどの地域行事は各集落ごとに行っており、
少しずつスタイルが違うため、「小谷流」とひとくくりには語れない。

人口減少などの要因から、今まで単独で実施していた集落の活動を広域的活動へシフトすることが必要

1. 村概要と小谷村の集落の特徴
2. **小谷村で形成、運営されている農村RMOの形**
3. 小谷村の農村RMO事例
4. 土谷地区の事例

集落や地区の個性がある地域運営組織(RMO)へ



1. 集落営農組織の活動原資

集落では中山間直接支払交付金の個人配分を抑え、共同取組活動に交付金を振分けた

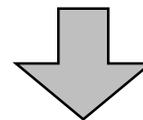
2. 集落営農組織としての活動

地域の課題解決を直接支払協定を中心に行うことで、自助・共助の精神が継続し、生活文化を維持

例：村道草刈り、生活用水管理、地区行事など

3. 集落や地区の課題

離村や若者流出により人口が減少→地域活動の縮小
地域を守るためには・・・

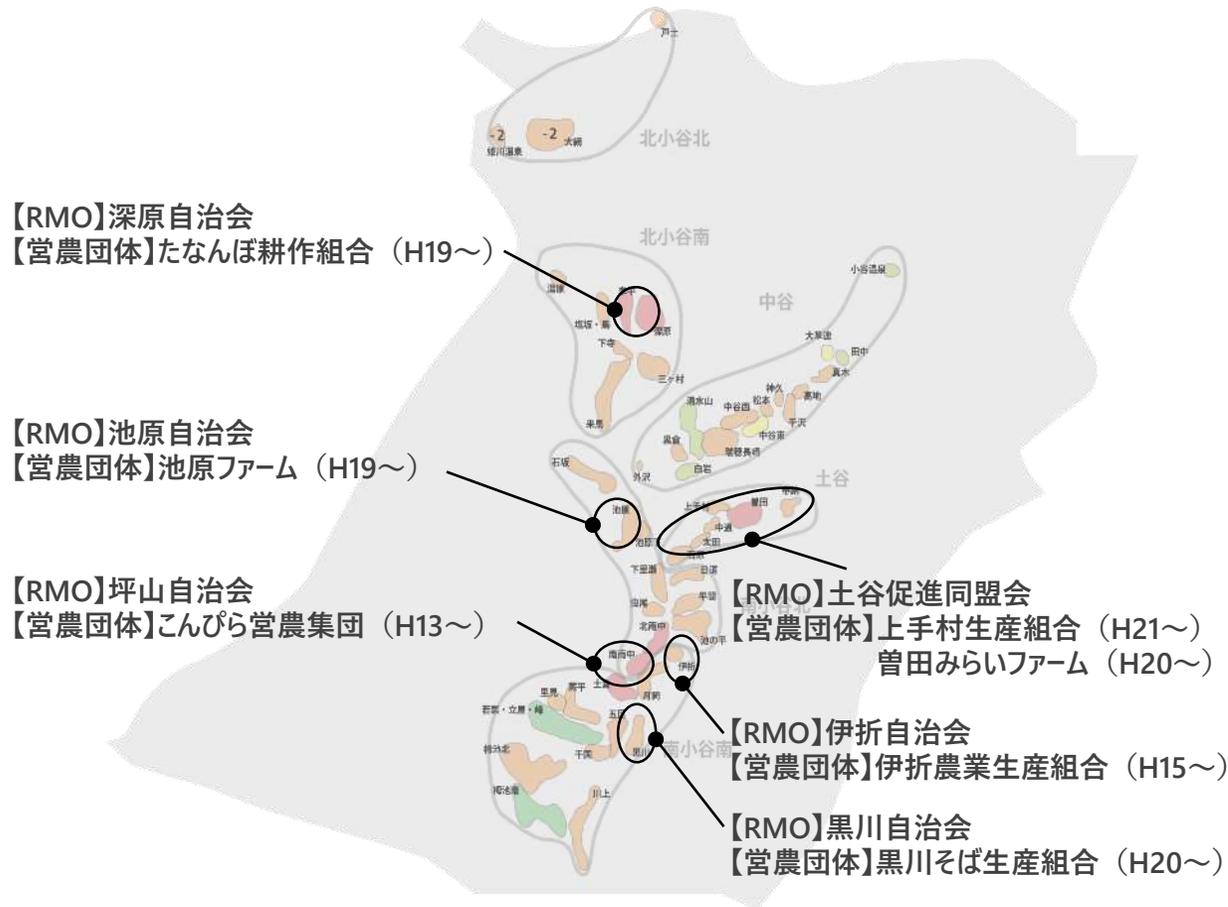


地域の課題解決に必要な3つの柱

- 次の世代へ後継していく「農村地域維持」
- 各集落の情報を共有する「地域間連携」
- 活動を応援する「行政支援」

地域に必要な3つの柱

～「農村地域維持・地域間連携」集落営農組織から地域運営組織へ～

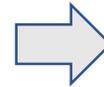


農水省の目指す農村RMO

「広域的な範囲（複数集落が連携）が支え合う組織」

中山間直接支払により個人農業から集落営農へ
発展した集落間の連携

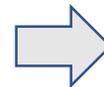
黒川そば生産組合
伊折農業生産組合
こんぴら営農集団
池原ファーム
たなんぼ耕作組合



集落営農実施集落
重点地域

地理的及び生活的につながりのある集落間の連携

上手村生産組合
曾田みらいファーム

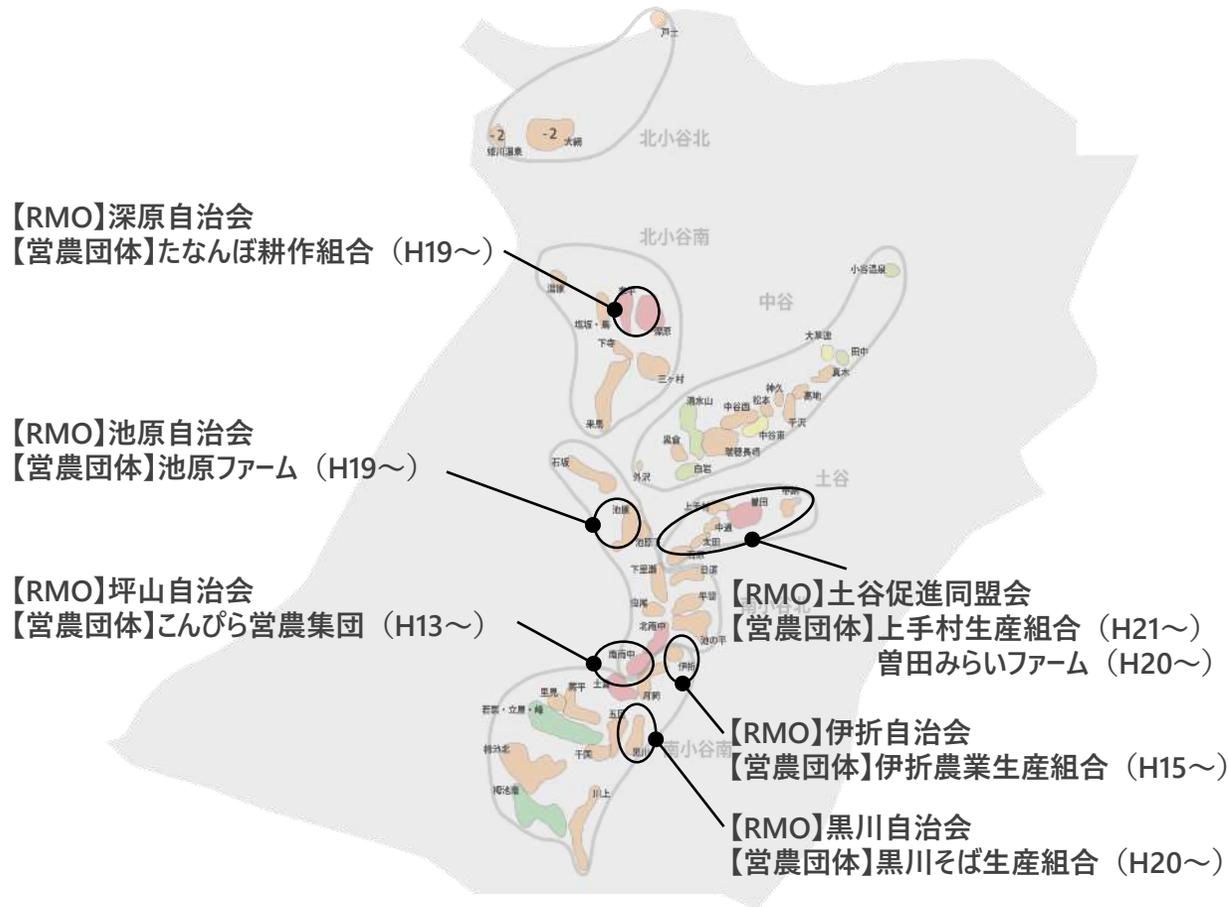


集落営農 + 近隣連携
重点地域

それぞれの集落が行ってきた活動を基に情報交換を行うことで、
地域の実情にあった活動を促進していきたい

地域に必要な3つの柱

～「行政支援」地域づくりと行政の関わり～



地域の語り合い

1. 課題・・・〇〇が問題だ！
2. 行動・・・課題を解決しよう！
3. 夢・・・こんなことしよう！

地域 自らで行動

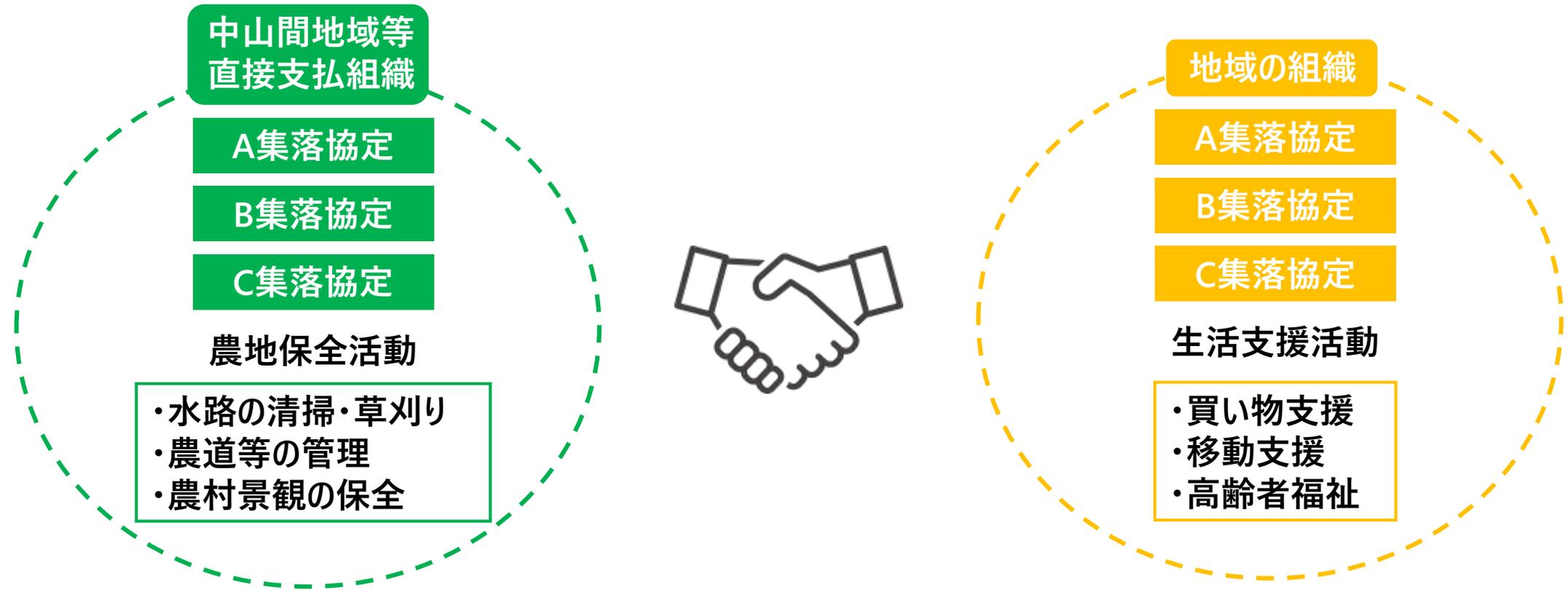
行政相談・支援

地域で解決

住みよい、元気な地域

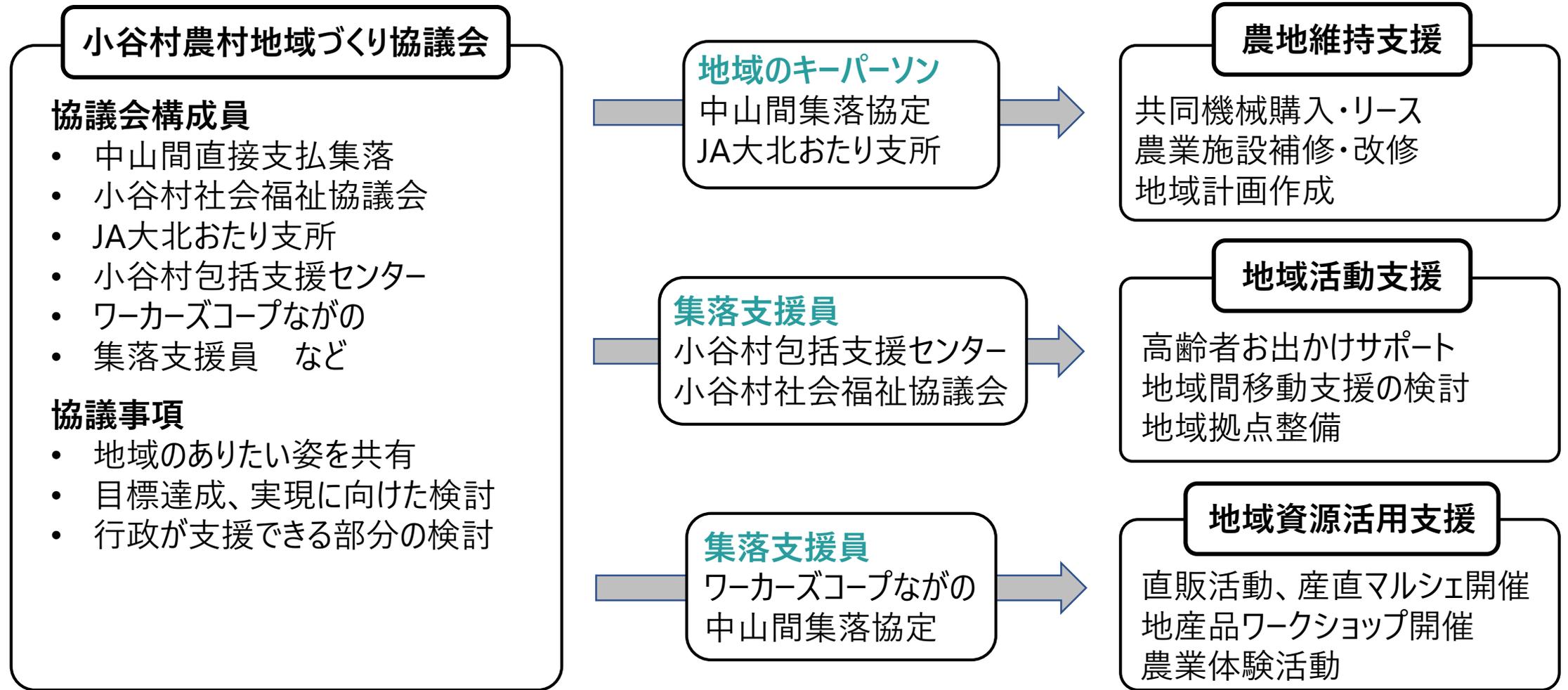
それぞれの集落が行ってきた活動を基に情報交換を行うことで、
地域の実情にあった活動を促進していきたい

地域の個性をまとめ上げる「ヒト」の存在



小さな村では「集落営農組織」＝「地域の組織」となりがち。
農業を核として、様々な取り組みを繋げるためには、「地域のキーパーソン」が重要。
小谷村では「集落支援員」や「地域の重要なヒト」が中心となり地域活動を作っている。

個の活動を面の活動にする小谷村農村RMO

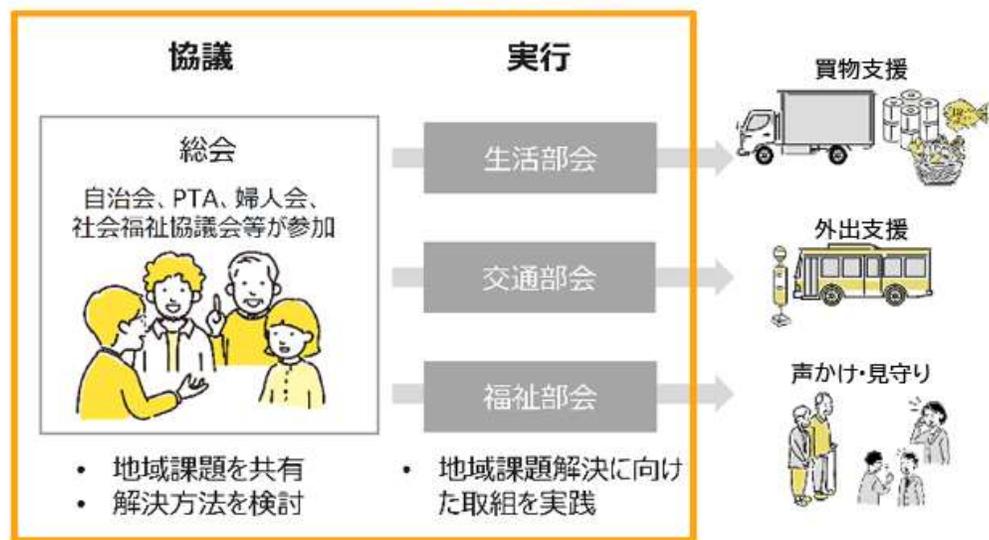


各分野ごと専門知識や地域とのつながりを活かして、様々な活動を展開

個の活動を面の活動にする小谷村農村RMO

(一体型のイメージ)

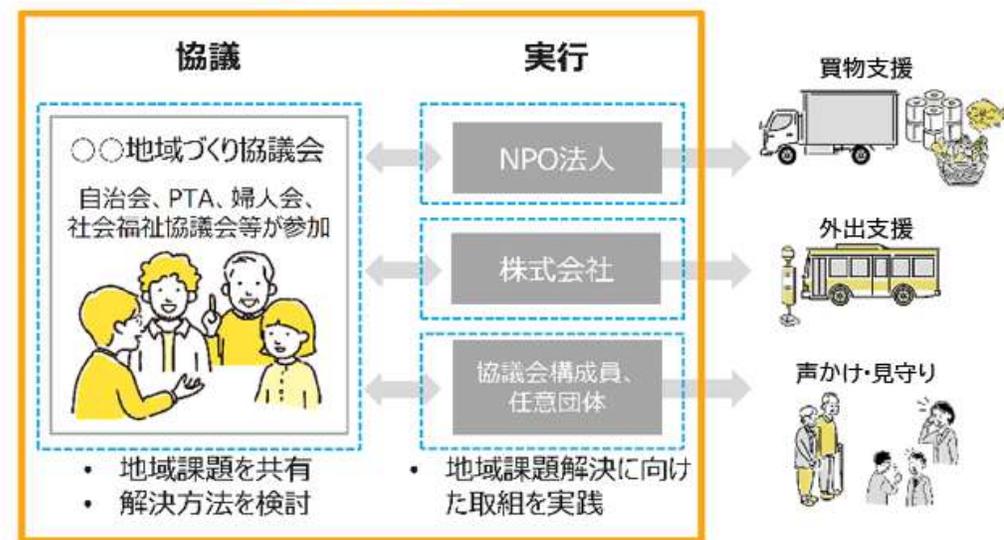
〇〇地域づくり協議会 (= 地域運営組織)



一体型：協議機能と実行機能を同一の組織が併せ持つもの

(分離型のイメージ)

地域運営組織



分離型：協議機能を持つ組織から実行機能を切り離して相互連携しているもの

1. 村概要と小谷村の集落の特徴
2. 小谷村で形成、運営されている農村RMOの形
- 3. 小谷村の農村RMO事例**
4. 土谷地区の事例

地域づくりの3つの柱。 重点的に力を入れて活動している事例を3つご紹介します。

CASE 1 池原集落



農地の維持保全

農山村風景を守り活かす地域づくり

CASE 2 伊折集落



地域資源の活用

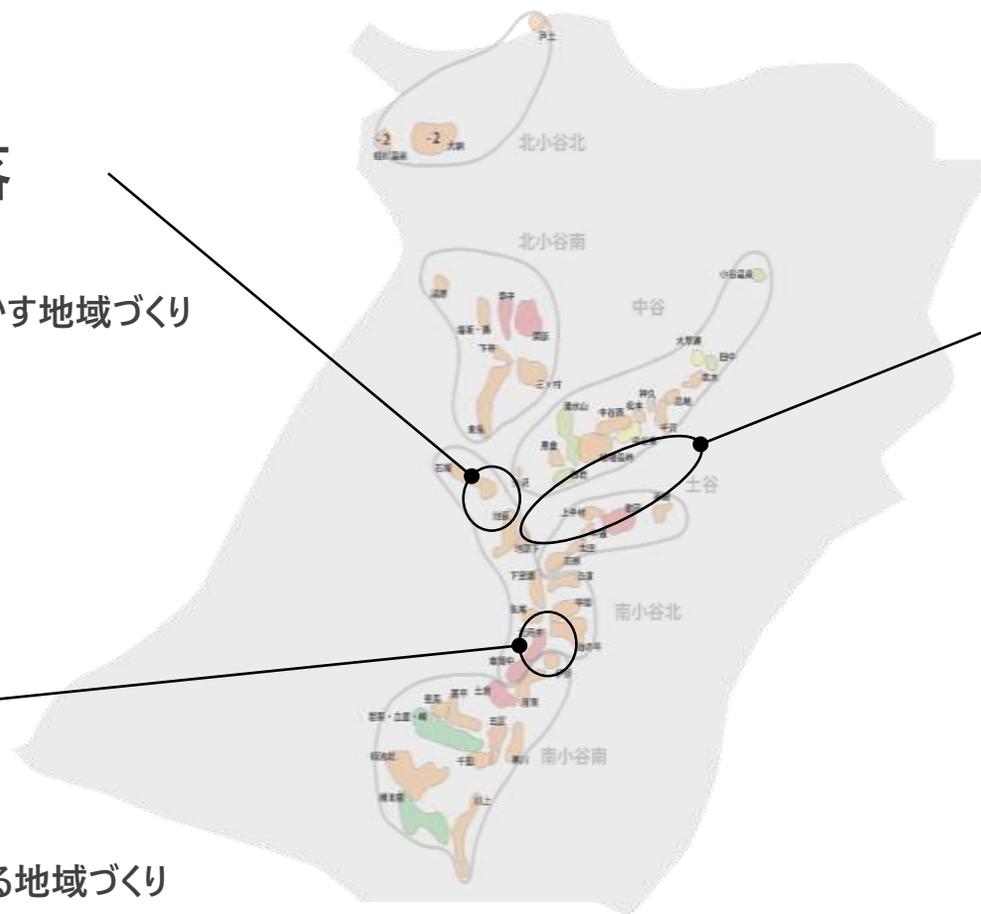
資源を活かし、
人々のつながりを創出する地域づくり

CASE 3 土谷地区



生活の支援

生き生きとした生活ができる地域づくり



集落営農により保たれる故郷の景観、人とのつながり、住民の心と体の健康



農地の維持保全

農山村風景を守り、活かす地域づくり



【形成】集落協定を締結を機に、集落内で農地保全に向けた取り組みを開始。

中山間地域直接支払集落協定

多面的機能支払集落協定

国からの交付金等は個人に分配せず、地域全体での活動費に充て、農村地域を維持。林産物栽培や共同機械導入により、後継者育成を行ってきた。

- ・ リタイヤ農地の保全（維持管理、農地耕作環境改善）
- ・ 共同施設・機械活用による効率化（作業小屋3棟、共同育苗ハウス2棟、トラクター3台、バックホー1台、田植機3台、コンバイン・乾燥機各2台）

地域資源の活用

資源を活かし、人々のつながりを創出する地域づくり

- ・ 棚田オーナー、農福連携によるコミュニティ創出
- ・ 学校給食米の契約栽培
- ・ 村特産品の雪中キャベツの苗を契約栽培

生活の支援

生き生きとした生活ができる地域づくり

- ・ 作業小屋が寄り合いの場に
- ・ 集落営農のメンバーみんなにボーナス（贅沢なレストランで慰労会）

活用事業

中山間地域農業直接支払、多面的機能交付金、産地交付金
集落営農づくり事業、農地耕作条件改善事業、遊休農地解消事業、小谷村むらづくり補助金

地域の資源と集落の人の魅力が人を呼び、村内外へと広がる里山愛の輪

農地の維持保全

農山村風景を守り、活かす地域づくり

【形成】荒れていく田畑を集落で守っていくため、生産組合を発足。

- ・ 村特産品である雪中キャベツの生産
- ・ 山菜の出荷
- ・ ミントマトの生産



生活の支援

生き生きとした生活ができる地域づくり

生産組合での作業は時給で住民に支払い



地域資源の活用

資源を活かし、人々のつながりを創出する地域づくり

関係人口、移住者へのオープンマインド

- ・ ゆきわり草（遊休古民家を活用した農村宿泊体験施設）
- ・ ツアーやワークショップなどの体験



学生が集落に入り里山を科学

学生時代伊折で過ごしたことをきっかけに移住する人も

- ・ 東京農大の研究拠点

(写真はキャベツを掘る農大生)



女性達のアイデアとパワー

誰かの興味関心に「いいね！いいね！」で人が集まりみんなで探求できる雰囲気アイデアを形にしてい

- ・ ハーブ園づくりと活用



活用事業

中山間地域農業直接支払、小谷村むらづくり補助金、域学連携事業、空き家対策事業
長野県元気づくり支援金

小谷村の農村RMO事例 3 【集落名】土谷（つちや）6つの集落から成り立つ地区 78世帯 【農村RMO】土谷促進同盟会 【営農団体】上手村生産組合、曾田みらいファーム

美しい花の谷で人が集い、全世代がワクワク幸せに住み続けられる地域づくり

農地の維持保全

農山村風景を守り、活かす地域づくり

【形成】6つの集落をつなぐ県道付近の環境整備を目的に発足。

- 水仙、大山桜の定植
- 集落営農による景観がいい休耕地でのそば栽培



地域資源の活用

資源を活かし、
人々のつながりを
創出する地域づくり

余剰自家野菜などの
自販機式無人直売所設置



環境整備のために
地域の有志で
飼い出したヤギも
みんなが集まる場に

重点
取組
POINT

生活の支援

生き活きた生活ができる地域づくり

歳をとっても楽しく生きる

- 介護予防事業「ずくだせ会」「らくらくサロン」
- お出かけサポート（運転できない方も皆でお出かけ）



地域のなかでのびのび育つ

- ひなたっこの会
（味噌づくりや畑づくりを教わる）



みんなが集まる場づくり

人々が気軽に集まれる場や機会をつくることで、次の活動のアイデアが生まれ、課題の解決に向かって住民が動き出す

- おらが食堂（有志で調理し地区の皆で食事）
- キッチンカーの日
- LINEグループ



活用 事業

集落支援員活動事業、地域おこし協力隊活動事業、介護予防拠点整備事業
空き家対策事業

1. 村概要と小谷村の集落の特徴
2. 小谷村で形成、運営されている農村RMOの形
3. 小谷村の農村RMO事例
4. **土谷地区の事例**

土谷地区

土谷川に沿って、6集落78世帯が暮らす地域



複数集落で取り組める条件

- ・生活道路（県道）を主に集落が点在
- ・山腹農業用水路は土谷地区全体で管理など生活における集落間連携がある地域



直接支払集落協定	2協定	集落営農	2組織
多面的機能協定	1協定	認定農業者候補者	1名
主たる生活道路	県道奉納中土停車場線(6km)		
主たる生活用水	土谷堰(延長12km)		

小さな拠点！地域の居場所！

土谷地区の中心に、土谷地区の拠点を設置。
いつでも誰でも利用できる「小さな拠点」
地域住民の拠り所が、様々なアイデアを生む。

「土谷空旅」



「貸し出し本」



「車座集会」

あったらいいな、やってみたい。心配事をみんなで語り合う。できることからやってみる。



「おらが食堂」 社協、包括、ワーカーズコープとの連携事業。
子ども食堂の地域づくり版「おらが食堂」

～1人1人が主役～



みんなの笑顔が集まりました。

みんなの生活道路を水仙)街道に！

土谷水仙会として地域住民が道路里親（アダプト）協定（県・村と協力して維持管理と沿道美化に取り組む）を結んだことをきっかけに平成13年から県道の清掃、草刈り、整備をしています。



「無人野菜ロッカー」

小さな拠点の庭に併設したロッカータイプの直売施設です。家で多く作りすぎた野菜がもったいないという思いから令和3年8月に設置しました。

土谷地区の6集落に1人に鍵を持ってもらい、6人が共同管理しています。運営、価格、管理、看板設置の全てを管理者同士で話し合い手作りで運営しています。利用者は多く土谷地区以外や村外からも足を運んでいただき新鮮で安いと好評をいただきました。生産者も地域も元気になり無人でも交流ができていると喜ばれています。

～つながる 輝く人たち～



「地域の環境をよくしたい！」

～1人1人が主役～



「ヤギが人気者」



ヤギが人々を癒やす！

「ヤギがいれば草刈りしなくていいんじゃないか！」

そんな一言からヤギをレンタル。

「ヤギの面倒は俺にまかせろ！」

「小屋はみんなで作ろう！」

今年からヤギ2頭を土谷地区で飼育がスタート。

そうこうしているうちに、各種イベントでもヤギが登場、ヤギを中心に、地域が賑やかになった。



介護予防事業 「ずくだせ会」 「らくらくサロン」

～暮らしの中での交流の場～

地域包括支援センターより理学療法士と地域支援コーディネーターによる介護予防事業。
簡単な体操をしたりお茶を飲みながらお話をしたり。

「らくらくサロン」は社協主催、体力測定や体操など。どちらもいつも笑い声がたえません。顔をあわせば、会話がはずむ。日常生活の困りごと、体調の把握にも繋がります。開催日に併せてキッチンカーも来場、高齢者の買い物支援の場にもなっています。



キッチンカー やきとり君



「マレットゴルフ」
毎週火、金曜日にマレットゴルフ場に集まり、終了後のお茶会が顔をあわせた情報共有や元気のでる交流の場になっている。



「ナイトキッチンカー」 7月8月は夕涼み会で若い世代が交流



「おでかけサポート」 (デマンド)

～移動支援、おでかけツアー～

「おでかけサポート」は主に移動支援の必要な方(免許ない方)を対象に実施。診療所、日常のお買い物、美容室など日常生活のサポートのほか、村内に新しくできたアイス屋さん、他地域での展望台見学、最近では会いたかった村内の同級生のお家に訪問など、高齢者が楽しく生活できるよう支援を行う。地域の集落支援員が同行し、おでかけをサポート。運転手は地域住民の顔馴染み方をお願いして利用者が気軽に利用できる様にしました。重い荷物も玄関まで運ぶお手伝いをするので心配なくお買い物ができます。



「ひなたっ子の会」

～地域に見守られて育つ～

土谷地域に住む未就園児の会「ひなたっ子」。味噌作り、サツマイモ栽培のお手伝いや街道のゴミ拾い活動をしています。清掃活動は、JA女性部や有志も賛同し、子どもの活動から、地域や団体への合同活動になりました。移住や核家族、嫁いできたママさんたちが交流する場になるほか、地域の事を学ぶ多世代交流の場になっています。皆が声をかけてくれて地域が丸ごと家族のような安心感です。子どもたちは、たくさんの人に見守られ、体験を通して地域や人を大切にする連鎖がうまれています。



味噌作り



春のゴミ拾い



やしろうま作り



さつま芋畑



ハロウィンの飾りカボチャを収穫祭で



雪中キャベツ掘り

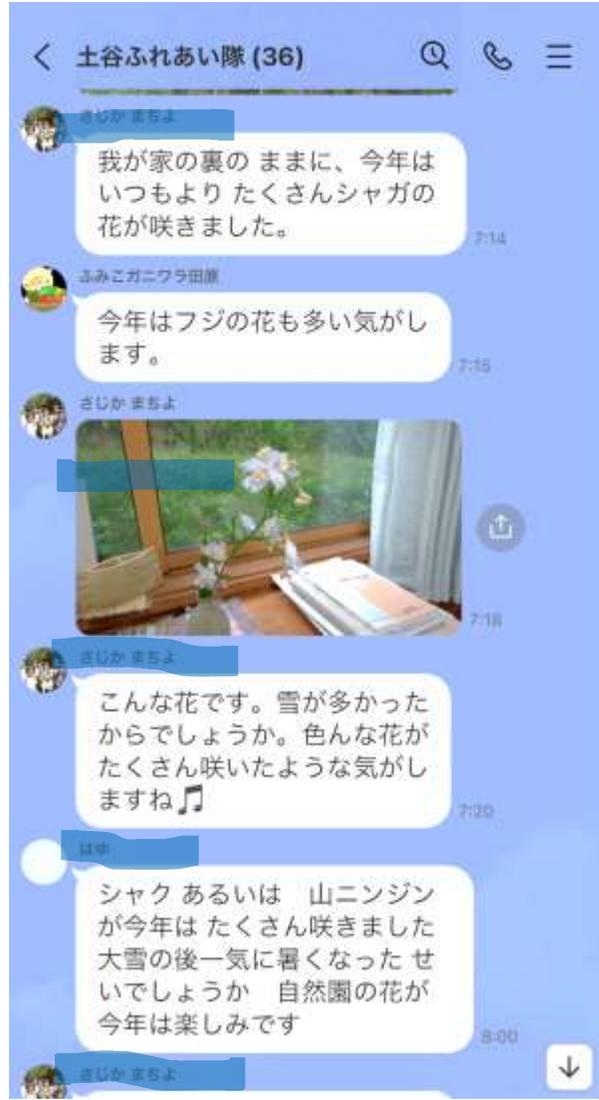
地域の情報を届ける！「お便り配り」水仙だより

「お便り配り」は月1回ほど土谷地区の出来事などのお知らせを全戸配布し、訪問も兼ねて声掛けをしています。地域のことがわかると特に高齢者から喜ばれています。



～地域の情報共有

SNSでの交流の場～



土谷地区 次は何をしようか！

1. オペレーターは任せろ事業

水路まで軽トラで行けるようになれば楽だな！
(70代堰番)

ソバの機械作業、作業受託会社へ依頼すると値段高くて！(70代集落営農組合長)

オレ、やっても良いよ！バックホーで道を開ければいいんでしょ？やるよ！（30代建設業）

〇〇が若くて機械大好きだから、オペをお願いしようよ。
(70代農家)
→オレを使うと高くつくぞ！（笑）（50代担い手候補）

2. 土谷へ住もうよ事業

あそこの村有地に移住住宅があればいいな！
(30代嫁)

〇〇宅空き家で、貸してもいいらしい。何か活用できないかな？（40代嫁）

どんな移住住宅がいいかな？絵を描こう。村へ建設も要望しよう！（60代女性）

今流行のDIY？でみんなでリノベーションどうかな？都市部の人も参加させてみよう！（60代大工）

3. 土谷を明るくしよう事業

道端の杉の木、日陰になるし、切れば明るくなるなあ
(80代)

何か地区内外灯だけじゃ暗いなあ。（70代）

あの土地、△△のものだ。1度交渉してみるか。多分切るのOKって言うよ。（70代）

バス停とかイルミネーションつけようか。(40代男性)

土谷地区の地域づくり

土谷地区の サイクル

拠り所→人が集まる→話をする→みんなで企画→
行動→バージョンアップ→元気

- 拠り所 小さな拠点と人が集う環境が必要
- 集う企画 何らかの演出で寄せ合う
- 夢を語る 茶飲み話からの実現に向けて
- やってみる 行動へ移す
- お知らせ 成果をみんなで共有
- 振り返る 反省会そしてまた行動

議員や集落支援員は、地域活動を全面的に支援。
行政も積極的に応援し、地域任せでもなく、行政任せでもない関係を構築
地域の自主性と行政支援を融合し、元気のよい地域を目指す。

令和に入ってから
の取り組み事例

どの集落にも属さず
集落の垣根を超えた集いの場

小谷村複合拠点施設
おたりつぐら



農地の維持保全

農山村風景を守り、活かす地域づくり

地域資源の活用

資源を活かし、人々のつながりを創出する地域づくり

生活の支援

生き生きとした生活ができる地域づくり

集落に散らばった
生産者・加工者・消費者をつなぐ場で
経済活動を村内全体に広げる

- マルシェ



各集落に眠る技や
小谷ならではの伝統を
次世代にもつなげていく

- しめ縄づくり
- 農業教室
- キムチ作り教室
- 杉玉ワークショップ



大勢でやればみんなが楽しい
運動や趣味が結びつける
集落を超えた仲間作り

- 体を動かそうデー
- 手仕事広場
- にこにこファーム
- スマホ教室



活用
事業

集落支援員活動事業、地域おこし協力隊活動事業、地方創生推進交付金



ご静聴ありがとうございました

